



一年の折り返し

【1年生が毎朝あさがおに水やりをしています。】

7月になりました。今年を折り返したことになります

梅雨時の不安定な天候と重なって、お子さんの体調や気持ちの様子はどうでしょうか？気になることはありませんか？

学校では気になることがあったら、家庭へ連絡を取り保護者の皆さんの力を借りよう、一緒に考えていってもらおう、としています。夏休みに入れば個人面談が予定されていますが、それを待たずに連絡ください。



【5年生が水やりを教えたり「教室に戻ろう」と声をかけたりしています。すてきな光景です。】

毎日、いろいろありますけれど…

毎日、保健室に子供たちが訪れます。

気持ちが悪い。グラウンドで転んだ。虫に刺されてかゆい。いつの間にか痛い。教室から出たら廊下を走って来た子とぶつかった。手を挙げたら後ろの子に当たった。いつも仲良しの子に変な顔された。何となく今までと違う気がする。些細なことからケンカになった。養護教諭は、ケガの手当てをしたり、体調をみたりしながら一人一人の気持ちに寄り添って話を聴きます。そして、必ず担任へ報告します。特に友達とのトラブルが起きた際には、担任は、さらにじっくり子供から話を聴きます。



学校では、毎日、いろいろなことが起きています。約550人の子供と大人（先生）がいますので、毎日いろいろあるのは、当たり前といえば当たり前です。

「行動には理由がある。」と考えられます。なぜ、そんなことをしたのか、そんなことになったのか。その時、どんな気持ちになり、どんな思いがあったのか。トラブルになった時には、双方からよく言い分を聞いて事実を確認します。しかし、なかなか話が合わずに本当のことが分からなかったり、自分のしたことを覚えていなかったり（小学生では、これは当たり前のことです。）します。自分では悪気がなくとも相手にとっては嫌なことだった、というのもよくあることです。

自分なりの言い分をよく聴いてもらえると、相手の言い分も聞き入れることができきて、お互いに納得します。そして、「この後どうするのか？」「このまま気まずいまままで過ごすのか？」「仲直りをするのか？」「そのためにはどうすればよいのか？」など、自分たちで考えるように仕向けていきます。こうした手順を踏んで、「どうすればトラブルにならなかったのか。」や「他の人と折り合いをつける。」ということを学んでいけるようにしています。（じっくり話を聴くにはそれなりの時間がかかりますし、その間、学級の他の子供たちを待たせることもあります。なかなか難しい…。よって、トラブルは、ないほうが良い。しかし、そうもいかない。これが学校…。）そして、状況によっては、お家の方へ連絡をさせていただきます。

トラブルは心配なことでもありますが、子供が成長するチャンスと捉えることもできます。ドラマのように、みんなが納得したハッピーエンドにするということは難しいですが、一つ一つのことに、一人一人の子供に、「この子のためにどうすることが一番よいことなのか。」を判断基準として、思いを大切に、丁寧に、これからも関わっていきます。